



川に見る・日本の四季⑩ 秋田の川の「夏」を追う

# 青空の峰雲を映し、悠然と流れる雄物川。

雄物川の夏を求めて、横手市から河口に向かう。

雄物川は秋田県南東端の栗駒連峰に源を発し、全長約130km。東北第5の長流である。源流を皆瀬川といい、やや下って成瀬川と合流し、雄物川となる。そして、穀倉地帯の秋田平野を悠々と流れていき、秋田市郊外で日本海に注いでいる。

横手一带は田園風景が続く。

濃い緑色に育った稲が夏の陽を浴びて輝いている。豊かな実りを連想させる緑の絨緞だ。風が吹くと葉が裏返し、薄緑色の波が稲田をせわしなく動いていく。

しばらく緑の中を走ると、にわかに川幅が広がった。堤に上り、少し走ってから川辺に下りてみた。雄物川は満々と水を湛えている。流れは極めて穏やかで、青い夏空に湧いた入道雲を鮮やかに映している。岸辺の植物群も水面にきれいに見える。周辺にはこれといった音もなく、閑かな時が流れていく。中天の陽の下で、しばし暑さを忘れてシャッターを押した。

この後、子吉川の上流で清流の夏を捜して走り回り、さらに田沢湖周辺まで足を伸ばした。秋田の夏も暑かった。



(上) 子吉川の源流は玉田溪谷(由利本荘市鳥海町)だ。3つの滝からなる法体ノ滝の上流に位置している。広葉樹林の中に、罅穴や淀みなど変化に富んだ溪谷美を展開している。荒々しい岩肌の間を、清流が飛沫を上げて白く流れていた。

(下) 田沢湖(仙北市)は水深(約423m)が日本で、透明度が高いことで有名だ。湖畔道路を走った。湖面は濃い藍色で、風もなく穏やかだ。畑仕事をしているおばちゃんが「今が一番いい季節だよ」と笑う。その会話を湖畔の花菖蒲が聞いていた。

